

[成果情報名] GAP 認証取得経営体における GAP の実行プロセス

[要約] 認証取得経営体は、取組を行いながら自経営における認証制度の価値探索を行っており、認証制度は GAP の実行プロセスに影響を与えている。行政及び支援者は GAP 実行に認証制度が及ぼす影響を考慮した政策立案及び推進活動が必要である。

[キーワード] GAP、実行プロセス

[担当] 三重県農業研究所 地域連携研究課

[分類] 研究

---

[背景・ねらい]

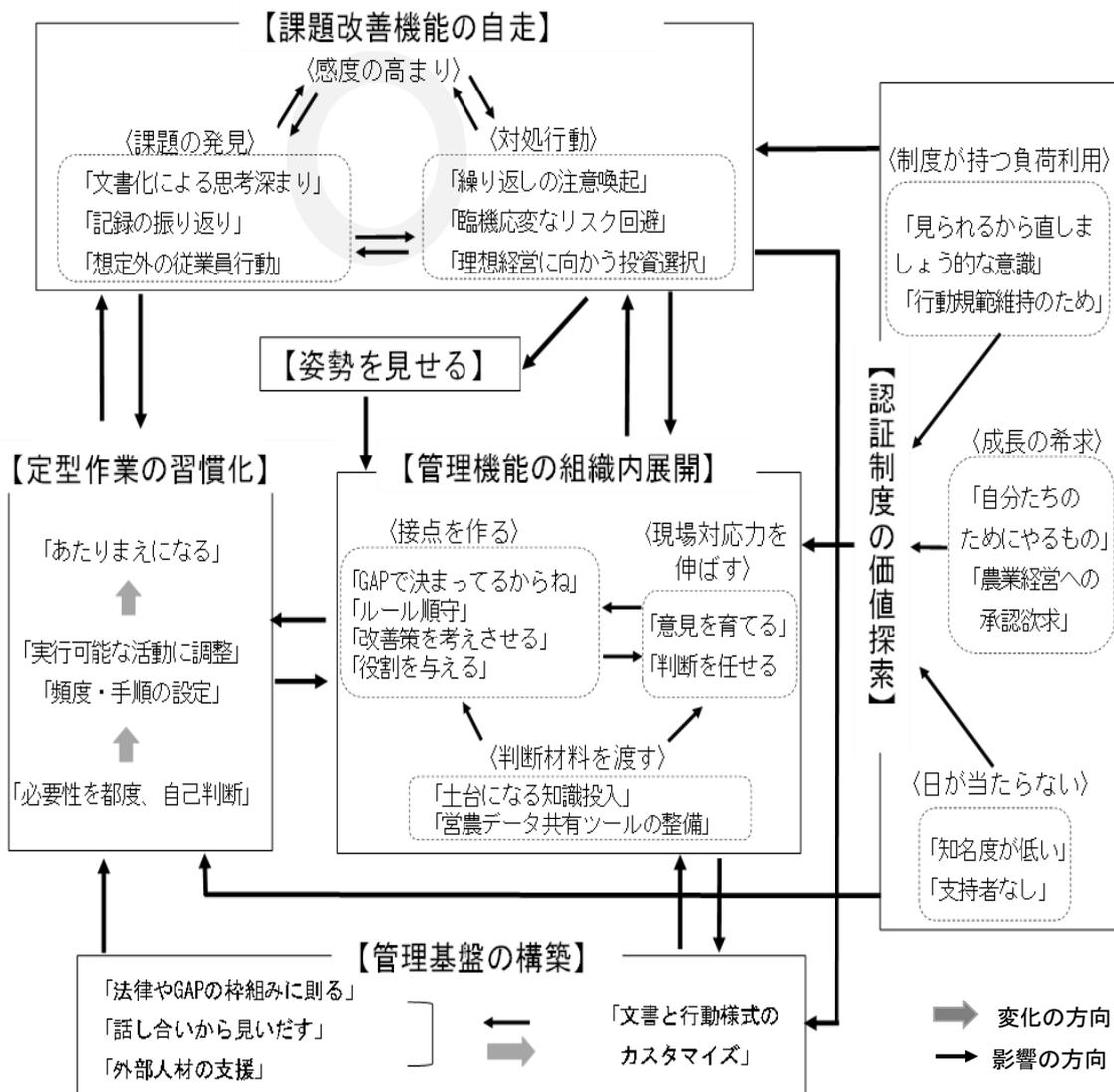
GAP(農業生産工程管理)は食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理の持続可能性を確保するための生産工程管理の手法である。経営者、従業員、その他ステークホルダーとが相互に作用し、GAP の取組を展開していくが、農業経営体がどのように GAP を実施し、継続させ、新たな改善に取り組んでいるかといった実行のプロセスは不明である。そこで本研究では、質的研究法の一つである M-GTA(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)を用いて、GAP 実行プロセスの全体像を明らかにする。GAP の多様な実施内容に共通する農業経営者等の行動と実行プロセスを構造的に捉えることにより、実践者や支援者の GAP に対する理解を深め、GAP 推進に寄与することを目的とする。

[成果の内容・特徴]

1. インタビューデータを分析し、28 個の概念、9 個のサブカテゴリー及び 6 個のカテゴリーを生成した(図 1)。
2. GAP に取り組む農業経営者等は、取組を行うための【管理基盤の構築】を行い、新たに発生した業務を【定型作業の習慣化】によって従来業務の一部に取り込んでいく。さらに、習慣化によって蓄積された作業記録等の中から新たな〈課題の発見〉をし、その〈対処行動〉をとる過程で〈感度の高まり〉が引き起こされ、また新たな〈課題の発見〉につながっていく。すなわち、自身が主体的に改善策を導き出し実行する【課題改善機能の自走】が起こる。組織の構成員に対しては、GAP との〈接点を作る〉と同時に、知識や営農データといった〈判断材料を渡す〉、それらを土台に〈現場対応力を伸ばす〉取組を通じて【管理機能の組織内展開】を図る。この【管理機能の組織内展開】を行う際に、農業経営者等は経営の方向性や自身が大切にしている価値観、構成員への待遇について【姿勢を見せる】ことにより、各構成員に取組動機の内在化を促している。そして、これらの動きは〈認証制度が持つ負荷利用〉、〈日が当たらない〉、〈成長の希求〉の 3 つの思いが入り混じった状態で【認証制度の価値探索】をしながら実行されている。
3. 【認証制度の価値探索】のカテゴリでは、農業経営者等は認証制度の知名度の低さと支持者不存在を感じており、そのことは認証維持のモチベーションを下げている。一方で、行動規範の存在はそれに従って行動しようとする自律性や自発性を生み出すため、その行動規範を維持する仕組みとして認証制度に価値を見出している。さらに、GAP 認証を取得・維持しようとする農業経営者等は本来的に農業経営を成長させ、より高いレベルに到達しようとする欲求があり、認証制度はその努力投入の証左として位置づけられている。

[成果の活用面・留意点]

当成果は GAP 実施者の行動の予測に有用である。また、行政担当者が GAP 推進の政策立案をする際の参考となる。



注1: 従業員 2~13 名 (家族含む) のいる認証取得経営体の農業経営者等 9 名にインタビューを実施した。

注3: 「 」は概念、〈 〉はサブカテゴリ、【 】はカテゴリを示す

図1 農業経営者等がGAPを実行するプロセス

(飯場聡子)

[その他]

研究課題名: GAP の取組拡大・認証取得支援事業

予算区分: 執行委任 (国費)

研究期間: 2023 年度

研究担当者: 飯場聡子

発表論文等: 関東東海北陸農業経営研究 (投稿中)